

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	消防作業中に発生した消防隊員左足部熱傷事故事例
3. 体験した事例の中心的要素	火災が時間と共に変化していくことへの認識不足
4. 体験した事例の原因・理由	<ol style="list-style-type: none">知識・経験不足安全管理の不徹底

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成 21 年 4 月 19 日 午前 9 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：全焼住家と部分焼非住家の間の農道（幅員約 2m）
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	火傷・熱傷、
7. 事例体験時の活動	火災現場活動中期、 [木造建物]
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	放水活動、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[22]歳、 勤続年数[2]年、 現場経験年数[1] 年、 階級[消防士]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
○当事者C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

1.1. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A	火災出動（3名）	
経過 2	A	現場到着（直ちに中継体制をとる）	（車長指示）
経過 3	A	中継体制完了後、1人で先ポンプからホース延長	放水活動（車長指示）
経過 4	A	左足に熱さと痛みを感じる	
経過 5	A	その後痛みを感じなくなり消火作業を継続	
経過 6	A	帰署後、防火靴を脱ぎ卵大の水疱を確認	
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

A horizontal line consisting of 20 solid black circular dots, evenly spaced from left to right.

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかつた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
 - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。
 - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。

b. 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
 - ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があつた。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○注意力欠如、焦り等の対策について

経験の浅い職員等への安全教育、並びに上席者への現場安全管理・監督の徹底

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

出動全隊員へ保冷剤、飲料水の携行

○指揮・情報伝達の対策について

火災概要図

町道幅員4m

消防車

車庫
部分焼

非
住家

10.7m

農道幅員2m

全焼住家
約300平方㍍
木造一部2階建て

非住家

非住家

部分焼

ぼや

気象情報

天候	晴れ
風向	南西
風速	0.6m/s
気温	10.9°C
湿度	78%

被災状況

全焼	1	住家
部分焼	3	非住家
ぼや	1	非住家

Aが負傷時着用していた防火靴には、破損・変形・変色等なし。

発災年月日 平成21年4月19日
制 作 ○○消防本部警防課